

Ⅶ 外来種の監視と防除

<主要施策の取組状況>

1 外来種の監視と侵入未然防止

①アライグマ等の外来生物の情報収集と監視

- ・ アライグマ防除実施計画に基づき、市町村に寄せられた捕獲情報・目撃情報を収集するとともに、各種調査で設置した自動撮影カメラの撮影記録からアライグマ情報を収集した。その結果、自然環境保全センターで実施している二ホンジカ植生定点調査において、奥山域に設置した自動撮影カメラで、アライグマの生息を一回のみ確認した。
- ・ 神奈川県愛甲郡愛川町及び JA セレサ川崎の依頼により、クリハラリスの生息調査（コールバック法※1、ベイト法※2等）を実施し、捕獲技術の指導を行った。また、クリハラリスの捕獲において、従来わな※3よりも、多頭捕獲わなによる捕獲数が多かった。この結果から、わなの方法や設置場所を考慮することによって、捕獲数が上がる可能性があることが示唆された。
- ・ 地域ぐるみの鳥獣被害対策の立ち上げを支援した、重点取組地区（Ⅲ-1-①参照）である綾瀬市において、被害状況の調査や専用捕獲器の貸与をしたところ、アライグマの目撃、被害件数が減った。



クリハラリス
従来型捕獲わな

- ※1 コールバック法 鳴き返し法のこと。対象種の鳴き声を大音量で流して、生息状況を確認する方法。
- 2 ベイト法 クルミと、目立つようにエサに見立てたピンポン玉でリスを誘因する方法。センサーカメラで監視してリスの撮影の有無を調べる。
- 3 従来わな クリハラリス捕獲の際に一般的に使われている「箱わな」

2 丹沢産緑化苗木の育成及び生物多様性に

配慮した緑化手法の検討

①丹沢産の緑化種子生産・苗木の育成

- ・ 水源の森林づくり事業等で使用する広葉樹 [16種]（「水源林整備の手引き(平成29年3月)」）の安定的な供給を図るため、堂平地区でブナの種子採種トラップを設置した。その結果、令和2年度は過去最高の採種量を記録し、大豊作であった。ま



ブナ種子
採種トラップ

た、檜洞丸地区でもブナ種子を採種することができた。

- ・ 県立 21 世紀の森に設置した、丹沢産等の母樹で育成したキハダ採種園で種子を生産し、苗木生産者が播種、育苗を行った。
- ・ 丹沢産種子による苗木が継続的に生産され、令和 2 年度は全 33 種、約 18 千本の広葉樹苗木が生産された。



丹沢産広葉樹の種子
(カズマミ)

② F S 生物多様性に配慮した緑化手法の検討

- ・ 平成 28 年度に生物多様性に配慮した緑化工として、遅速緑化の試験施工を行った。その林道法面の施工地において、在来木本等の侵入、定着により法面緑化が図られていることが確認された。
- ・ 治山事業、林道事業での施工実績はなし。

○事業実施位置図（位置情報のある事業のみ掲載）

